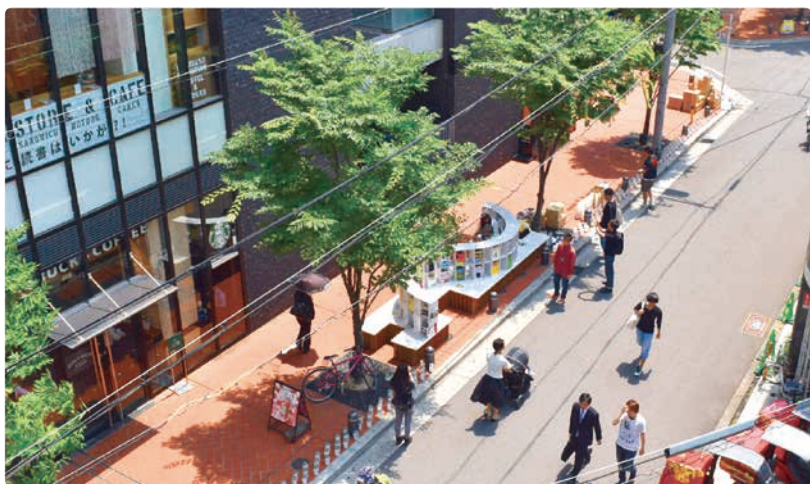


茶屋町スロウデイ2017



活動の目的

- 1 | まちの連携と賑わい創出を図り、エリアの魅力発信、歩いて楽しいまちを目指した
- 2 | 本と人との関係を再構築し、本と人とまちとの関係を風景にすることを目指した

連携にいたる経緯

関西大学梅田キャンパスから、NU茶屋町前に休憩・学びのスペースとして、本棚と座れる空間を設計してほしいという依頼が関西大学都市設計研究室にあり、STANDARD BOOKSTORE心齋橋店とコラボレーションし、計画、設計、施工、運営を行った。

活動内容

2017年6月1日の実施に向け、主催の阪急電鉄、運営に携わるカクタス株式会社と連携しプロジェクトを進めた。一定の時間、茶屋町エリアの道路交通が規制され、歩行者天国となる事から公共空間を魅力的な場へと変換する本棚を設計した。人々が本に触れながらスロウな時を過ごせるように、設計コンセプトを“人々が本とキャンドルの風景を楽しみながら一息つき、寛げる場を創造する”とし、全ての本を表紙で見せ、沢山の人が座れる様に設計した。本棚を強化段ボールで制作し、矢野紙器株式会社に依頼した切り出し以外は、モックアップで安全を確認しながら研究室全員で取り組んだ。表面にはキャンドルと相性の良い和紙を張り、夜になると本棚からほのかな灯がこぼれる柔らかさを演出した。当日は老若男女が本を手に取り腰掛け寛ぐ、多様で豊かなふるまいを見ることができた。茶屋町スロウデイ2017終了後、関西大学学長室URA・授業支援グループの支援を受けて、本棚は凧風館1階コラボレーション commons に設置し、活用されている。

活動の成果

- 1 | 歩行者空間化された事で、茶屋町エリア全体に賑わいを創出する事ができた
- 2 | 座る所がなく、人通りの激しかった場所に、魅力的な場を創出する事に成功した
- 3 | 関西大学の複数部局、大学研究室、民間企業が協働することで、まちの魅力を創出するプロジェクトが成功をおさめた

● 教員紹介



環境都市工学部 教授 木下 光(きのした ひかる)

モノ×ヒト=コトをコンセプトとして、香港・シンガポールを中心に公設市場・ストリートマーケット研究、アジアにおけるクールルーフ・ルーフスケープとしての瓦及び瓦建築の研究・開発、開かれた公共空間のデザインや管理運営、都市住宅における敷地計画・住環境形成、戦後日本の都市デザイン論などの研究を行っている。

DATA

● 主な連携先・メンバー

阪急電鉄/
STANDARD BOOKSTORE 心齋橋店/関西大学環境都市工学部建築学科都市設計研究室/関西大学梅田キャンパス/関西大学学長室URA/関西大学授業支援グループ

● 活動地域

大阪市北区茶屋町

● 活動資金

関西大学梅田キャンパス



キャンドルが点灯した様子



本棚の制作に取り組む様子



凧風館 commons に設置している様子

今後の課題・目標

- 1 | 現在、凧風館コラボレーション commons に設置しているが、今後どのように活用していくか
- 2 | 場所を変えた場合にどのように使われるのかについて、利用学生に行ったアンケート調査の分析をどのように公共空間のデザインやマネジメント研究に応用するか